



2021年11月30日

アウディ ジャパン株式会社
プレスサイト <http://www.audi-press.jp/>

お客様問い合わせ 0120 - 598 - 106
アウディ コミュニケーションセンター

2021 SUPER GT 最終第 8 戦、2 台の Audi R8 LMS が完走

- #21 Audi Team Hitotsuyama は Q1 を突破し予選 11 位、決勝 17 位
- #6 Team LeMans with MOTOYAMA Racing は予選 23 位から追い上げ、決勝 18 位

アウディ ジャパン株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：マティアス シェーパース）は、Audi R8 LMS で 2021 年シーズンの SUPER GT GT300 クラスに参戦するカスタマー（プライベート）チームをサポート。11 月 28（土）、29 日（日）、富士スピードウェイ（静岡県 1 周 4,563m）で 2021 SUPER GT 最終戦となる第 8 戦「FUJI GT 300km RACE」が開催されました。

今年 2 度目となる富士スピードウェイで開催された今大会は、新型コロナウイルス感染防止策をとりながら観客を迎え入れて開催。予選・決勝の両日ともに晴れわたり、富士山を望む絶好のコンディションのもと、約 5 万 8500 人の観衆が訪れました。

アウディ ジャパンとパートナーシップ契約を締結している Audi Team Hitotsuyama（アウディ チーム ヒトツヤマ）、A ドライバーは川端 伸太朗選手、B ドライバーは篠原 拓朗選手を起用。マシンのカラーリングは赤を基調にベージュを組み合わせたツートーンカラーで、ヨコハマタイヤを装着しています。

また、今シーズンは GT500 やスーパーフォーミュラで活躍してきたチームルマンと本山 哲氏とのジョイントプロジェクト Team LeMans with MOTOYAMA Racing、A ドライバーは本山 哲選手自身が務め、B ドライバーに片山 義章選手を起用。マシンのカラーリングは鮮やかなブルーを基調として、同じくヨコハマタイヤを装着しています。

土曜日の予選は、好天に恵まれドライコンディションでスタート。参加車両が 28 台と多い GT300 クラスの予選は、A 組、B 組の 2 つに分かれて Q1 を行い、各グループ上位 8 台が Q2 へと進出するノックダウン方式を採用。まず #21 Audi Team Hitotsuyama の川端選手が A 組で出走。4 番手となる好タイムを出しました。続く Q2 は篠原選手が 11 位となり、入賞を狙えるポジションを獲得。一方、#6 Team LeMans with MOTOYAMA Racing は片山選手が B 組でアタックを行いましたが、Q1 をクリアすることができず、予選 23 位スタートとなりました。

前日に続き、雲ひとつなく晴れ渡った絶好のコンディションのもと、午後 1 時に決勝レースがスタート。#21 Audi Team Hitotsuyama のスタートドライバーは、川端選手が務めました。レースは序盤からセーフティカーが導入されるなど荒れた展開になります。タイヤと気温とがうまくマッチングせずペースが落ちてきたこともあり、24 周を終えた時点でピットイン、篠原選手へとドライバーを交代します。因みに、今大会ではタイヤ 4 本交換が義務付けられており、前レースのような 2 本のみ交換といったピット戦略をとることができませんでした。また、篠原選手のピット作業中にエンジンを始動するミスにより、ドライブスルーペナルティが課されてしまい、ポジションをダウン。その後、篠原選手はミスを挽回するようにベストタイムを更新しながら猛追。最終的に 17 位でレースを終えました。

#6 Team LeMans with MOTOYAMA Racing はスタートドライバーを本山選手が担当。着実にポジションをあげ、チームはレース 3 分の 1 を終えた時点で早めのピットインを選択。今シーズン初めて第 2 ステイントを託された片山選手は、タイヤマネジメントに苦労しながらも、大きなミスもなく周回を重ね、最終的に 18 位までポジションをアップし、完走を果たしました。

#21 Audi Team Hitotsuyama チーム代表 一ツ山 亮次氏のコメント

「優勝したもてぎ戦からの流れで、マシンの調子はよく、予選では川端選手が想像していた以上のパフォーマンスを発揮してくれました。篠原選手も僅かにミスはありましたが11番手で、決勝は期待できる状況でした。しかし、決勝は予選で使ったタイヤの装着義務があるのですが、前半のスティントは温度レンジがうまくあわずに苦しい展開になりました。ペナルティもあって残念ながら入賞はできませんでしたが、シーズンを完走で終えられたことは良かったと思います。今シーズンは苦しい展開が続いていましたが、第7戦のもてぎで会心のレースで優勝できたことが、チームにとっても何よりうれしいことでした」

#21 Audi Team Hitotsuyama 川端 伸太朗選手のコメント

「富士はR8 LMSにとっては厳しいサーキットなんですけど、そこで予選Q1を4位で通過できたことに今年の成長を感じることができました。決勝は路面温度が上がり、タイヤの温度レンジに合わず厳しい展開になりましたが、後半はタイヤを変えていいタイムが出ていました。今シーズン、前半は苦しい思いもしましたが、後半にかけて成長できた部分もあるので、それをこれから繋げていきたいです。来年のことはまだ決まっていますが、今後も応援していただけると嬉しいです」

#21 Audi Team Hitotsuyama 篠原 拓朗選手のコメント

「決勝のペースに関しては、想定してよりも良かったと思います。ただ何よりもピット作業中にエンジンを始動するミスにより、ドライブスルーペナルティを受けてしまったことが悔やまれます。少なくともポイント争いができたと思うので、チームや応援して下さったオーディファンに申し訳ないです。初めてのフル参戦で苦しい思いもしましたが、毎戦チームの団結力があがって、前戦では優勝もできてたくさんのことを勉強させていただきました。これからのレース人生に活かしていきたいです」

#6 Team LeMans with MOTOYAMA Racing 本山 哲選手のコメント

「決勝レースはグリッド後方からのスタートになってしまったので、上位を狙うのは難しい展開でしたが、それなりのペースでは走っていたと思います。今年は自分を中心にチームを組んでいただいて、チームルマンさん、一ツ山レーシングさん協力のもと、初めてのGT300への挑戦でした。300の難しさを痛感し、思考錯誤しながらチームとして頑張ってきた1年でした。プロジェクトは来年も継続する予定ですので、オフから準備をはじめて次につなげていきたいです」

#6 Team LeMans with MOTOYAMA Racing 片山 義章選手のコメント

「今回の決勝では初めて第2スティントを担当させてもらい、冷えたタイヤでスタートして、いかにロスなく走行すればいいかなど、学びのあるレースでした。今年はGT300へのデビューイヤーでしたが、マシンのことやタイヤ、ピット作業はもちろん、GT500との混走など複合的な戦略が必要で、想像していた以上に難しく本当に勉強になりました。来年のことはまだ決まっていますが、この経験を活かせば次はもっとうまくできると思うので、わくわくしています」

アウディ ジャパンは2016年来、Audi Sport customer racing パーツトレーラーを全国のサーキットに配備してレースに参戦するカスタマーチームをサポートしてきました。今年も専用のトレーラーにボディ、トランスミッション、エンジン等、レース車検に適合した約3,100アイテム、約11,100点の部品を積載し、SUPER GT、スーパー耐久、およびTCR ジャパンに参戦するチームと共に国内サーキットを転戦。いかなるレース展開にも対応できるように体制を整え、Audi Sport customer racing の活動に貢献、参戦各チームから高い評価をいただきました。